

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシーフォーラム4

子どもたちの日本語の力を描く、育む

パネルセッション「日本人児童生徒」と「JSL児童生徒」の日本語の力の発達とその教育
2017年3月5日(日) 聖心女子大学

JSL児童生徒の 日本語能力アセスメント 実施支援の成果から

渡部倫子（広島大学大学院 准教授）

協同研究者：中石ゆうこ（県立広島大学） 建石始（神戸女学院大学）
永田良太（広島大学） 吉村瑞希・岩井実里・森重里保（広島大学大学院生）

1. はじめに



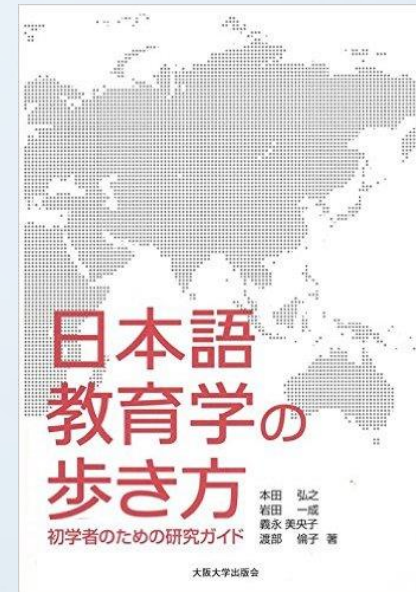
自己紹介

専門

日本語教育学、言語評価

JSL児童生徒のための研究テーマ

- 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA実施者の気づきと成長（櫻井千穂氏）
- 読解文の口頭再生におけるテスト（テスト実施者）の足場かけ（永田良太氏）
- 日本語能力診断シート（下敷き）の開発（中石ゆうこ氏）
- 外国にルーツをもつ特別支援学級在籍児童の複言語能力に関する調査研究（松田真希子氏）



広島市におけるJSL児童生徒への 指導体制の課題（二宮孝司校長, 未刊行）

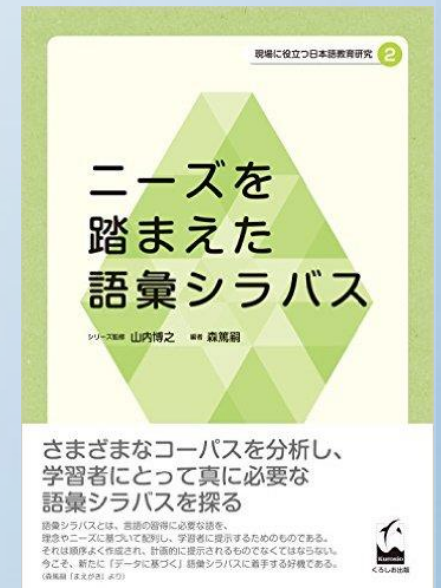
1. 広島市中区（基町小学校）に中国ルーツ児童が集住
2. 中区以外は散在、ルーツは多様
3. 自治体ごとに温度差
4. 文化的に多様なJSL児童のアイデンティティ形成が必要
5. 日本語指導者養成、教員間の連携、教科内容の習得につながる語彙の精選が急務
6. 「基町メソッド」を中学校区→広島市→広島県へ提案₄

広島市立基町小学校との共同研究

1. 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント
DLA実施を依頼される
2. 従来の教務システムと日本語教室の教務システム
(DLAの結果含む) の統合を依頼される
3. インフラの問題で頓挫
4. 日本語の取り出し・入り込み授業の指導記録を
データベース化

広島市立基町小学校との共同研究

5. データベースから、つまずき語（指導が必要であった語）の抽出（中石・建石, 2016)
6. **つまずき語の困難度に対する教師の印象
評価**
7. **上記5.6.の結果共有と教育実践：
理科・日本語の教案検討会**



2. つまづき語の困難度に対する 教師の印象評定



背景

1. 日本語指導者養成、教員間の連携が急務（二宮, 未刊行）
2. 日本語指導に携わる教員間で具体的な言語能力のイメージが共有されていない（中島, 2010）
3. 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA、年少者用SPOT（酒井・河野・小林, 2015）や教材の妥当性を検討するための基礎資料が必要

目的

指導記録データベースから抽出した、つまずき語（中石・建石, 2016）と、その困難度に対する教師の印象評定を共に提示することで、教科内容の習得につながる語彙リストを作成する。

先行研究

1. 1958年、専門家15名による印象評定をもとに、小中学校の基本語彙が選定された（阪本, 1958)
2. 1976年、中央教育研究所が小学校教師5名の印象評定により、4,589語を、低学年、中学年、高学年、上級の4段階に分類

先行研究

3. 2011年以降、日本語教育でも、語彙リストを精選するための指標として、印象評定が採用されている
(バトラー後藤, 2011; 山内編, 2013;
Sunakawa・Lee・Takahara, 2012)
4. 日本語教師が学習者にとって簡単だと評定する動詞であっても、JSL児童生徒は習得が遅れる
(西川・青木・細野・樋口, 2015)

先行研究の課題

1. 印象評定の対象となる語彙リストが書き言葉によるコーパスをもとに選定されているため、語彙リストに漏れがある恐れがある
2. CLD児童の語彙力を予測するための語彙テストも、書き言葉（教科書や教科の指導要領）をもとに開発されることが多く、語の選定に関わった教師の特性や印象評定の方法については報告されていないケースもある
3. 印象評定をする教師が2～7名と少数であるか、報告されていないため、より多くの調査協力者による検討が必要である

調査の概要

- 目的：
 - 日本語母語話者が「JSL児童にとって困難だ」と考えている語彙のリスト化
 - JSL児童に対する指導経験の有無による印象評定の違い
- 期間：2015年6月～8月
- 協力者：日本語母語話者98名（うち、JSL児童に対する日本語教育経験のある日本語母語話者43名）

調査の概要

- オンラインと紙媒体による質問紙法
 - 便宜的なサンプリングだが、様々な背景を持つ調査協力者に依頼
- 質問紙で用いた、つまずき語（中石・建石, 2016）
 - JSL児童（小学3年生、8名）指導記録データベース（2011年; 2012年）から、2回以上指導があった408語を抽出
 - 先行研究の語彙リスト（田中・近藤・平山、2011; バトラー後藤、2011など）との比較を行い、重要な214語を精選

調査の概要

• 調査の手順

1. 所属や教育歴などを問うフェイスシートに回答
2. 語の困難度について5件法で回答する練習
3. 214語の困難度について5件法で回答
4. 教示：それぞれの語について、外国にルーツを持つ小学校3年生の児童にとって、5（非常に難しい語）から1（非常に簡単な語）のどれにあたるかを直感で判断し○をつけてください
5. 困難度を判定する際に想定した児童について自由記述

調査の概要

- 分析の方法：

1. つまずき語リストのカテゴリーとの比較（中石・建石, 2016）
2. ウェブアプリLangtest.jpとR version 3.2.1を用いた統計
 - 基礎統計量
 - 相関分析
 - マン・ホイットニー検定、フリードマン検定、ウィルコクソンの符号付順位和検定

結果：教師の印象評定による難しい語トップ10

	語	教師 (43名)		日本人 (55名)	
		M	SD	M	SD
1	七福神	4.79	0.47	4.76	0.58
2	嵩（かさ）	4.58	0.85	4.82	0.43
3	ふと	4.49	0.80	3.91	1.13
4	要求	4.44	0.91	4.24	0.96
5	城跡	4.44	0.80	4.45	0.92
6	～あたり（あたりの数）	4.37	0.85	3.91	1.19
7	都合	4.37	0.85	4.04	1.09
8	峠	4.35	0.97	4.42	0.90
9	繰り下げる	4.33	1.04	3.85	1.08
10	述語	4.16	0.69	3.85	1.01

結果：教師の印象評定による易しい語トップ10

	語	教師 (43名)		日本人 (55名)	
		M	SD	M	SD
214	大きい	1.02	0.15	1.20	0.56
213	7	1.02	0.15	1.15	0.52
214	10	1.09	0.29	1.22	0.69
211	長い	1.16	0.53	1.40	0.71
210	多い	1.19	0.55	1.35	0.64
209	重い	1.19	0.50	1.58	0.92
208	来る	1.23	0.57	1.60	0.95
207	歩く	1.23	0.57	1.45	0.83
206	短い	1.26	0.44	1.58	0.94
205	軽い	1.26	0.44	1.71	0.99

結果

1. 難しい語：

- 難語（数詞・助数詞・単位、時、方角、オノマトペ、日本の年中行事）
- 学習語（バトラー後藤, 2011）

2. 易しい語：

- 教科共通語（教科書に2回以上出現）
- 日常語（旧日本語能力試験 4 級・3 級）

結果

3. 困難な語のカテゴリー ($r > .76, p < .00$) :

1. 難語

2. 学習語

3. 教科 (算数・国語) に特有の語

4. 教科共通語

5. 日常語

} **つまり語!**

4. JSL児童に対する指導経験の有無による違い:

- 統計的な有意差なし ($r = .85, U > .52, p > .10$)

3. 調査結果の共有と教育実践



調査の教育的示唆

1. 難しい語の学習支援は連携できるが、易しい語は見落としてしまうかも
2. 「日常語」につまずいたとしても、教師がすぐに適切な語を答えるのではなく、JSL児童・日本人児童から類義語、反義語、言い換え、例文、例え話を引き出す（森, 2013）
3. 語彙のフィードバックは明示的・高頻度のほうがいい？
（Lyster & Saito, 2010）

調査の教育的示唆

4. 語彙テストの開発プロセスにおいて、予測する語彙力の特徴（受容面か表出面か等）だけでなく（中島、2010: 274）、用いる語の選定に日本語母語話者の印象評定をどのように活用したかを丁寧に記述
5. 語の困難度に対するテストターの認識が、評価にどのような影響を与えるかを実証的に検討

調査の教育的示唆

6. 語の困難度に対する認識：親学級担任教員、日本語教室教員、教師経験のない日本語母語話者（例えば保護者）間には、あまり差が無いことを自覚
7. 連携のために、指導記録の蓄積と調査結果の共有をふまえた教育実践が不可欠

基町小学校における教育実践： 理科・日本語の教案検討会での意見

1. 現場感覚からすると、日本語指導は専門性が高すぎて特別な個別なこととして捉えがち
2. 教務主任が日本語教室チーフを兼任することで、語の指導に対する感度が、より高くなるのではないか
3. 調査結果の共有により、**教員の意識が変わり**、学級全体の学力向上につながる

基町小学校における教育実践： 理科・日本語の教案検討会での意見

1. 親学級担任教員が全国学力テストの課題を分析し、理科用語リストを作成
2. 日本語教室担当教員、大学教員合同の教案検討会の実施
 - 語の頻度、親密度に配慮した教室活動
 - JSL児童から「差しこむ」例文を引き出す方法

学年	小問内容	理科用語	課題となっている内容
4年	水の温度と体積の変化と生活の関係	体積 〇〇をそろえて 平ら	<ul style="list-style-type: none"> ・「中の水がこおっていて、ペットボトルがパンパンにふくらんでいた」から「体積」という言葉が浮かんでいない。 →「体積」を使って記述した児童が、24人中6人 ・「体積が大きくなる」イメージが持てていない。
4年	水の温度と体積の変化と生活の関係	内がわがくもった あわ 湯気 水蒸気	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆげと水蒸気の違いを理解していない。
3年	物質の磁石と電気に対する性質	差しこむ アルミニウムはく S極 N極	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石につく物のみ、電気を通す物のみについて理解している児童が半数弱いる。 ・磁石や電気の性質が理解できていない。 ・回路の仕組みが理解できていない。
3年	日なたと日かげ	えきだめ 日なた 日かげ しめりぐあい	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽の動き、かげの動きがわかっていない。(東から西に動く) ・かげが太陽の反対側にできることがわかっていない。 ・上記の2点がわかっていても、上手く言葉で説明できていない。

よりよいアセスメントのために

1. 宿題, テスト, 観察, 指導記録などは, 静的なアセスメントになりがち
2. DLAは, より動的 (ダイナミックな) アセスメントといえる
3. アセスメントの実施後が重要
4. 今実施しているアセスメントをより動的に
5. JSL児童, 保護者, 教員, 社会の有機的な連携

4. まとめと今後の課題



まとめ

調査目的：JSL児童のつまずき語（中石・建石, 2016）に対する日本語教師の印象評定を明らかにすること

1. 日本語母語話者98名を対象とした質問紙調査を実施し、JSL児童（小学3年生）がつまずく214語を困難度順にリスト化
2. 日本語母語話者は、カテゴリー「難語」、「学習語」、「算数」、「国語」、「教科共通語」、「日常語」の順で、難しいと判定
3. 教師歴（JSL児童に対する指導経験と教員の在籍学級）は語彙の困難度判定に影響しない

具体的な語彙学習の提案（森, 2003）

1. 精神的な安定・安心感が土台
2. 第一言語での認知能力が重要
3. 高頻度語を優先的に指導
4. 語形態分析による語彙・漢字語彙の指導
5. 語の深さ（多義語 = 易しい語）の指導

具体的な語彙学習の提案（森, 2003）

6. 語彙力の高い児童は、読書が趣味
7. JSL児童にとって、読み = 書き言葉 + 話し言葉の習得
8. 語彙学習の方法を指導
 - 語彙学習に対するビリーフを提示
 - 文字別（外来語・和語）を意識した音読練習
 - 語彙に触れる頻度を上げる = 読書で読みの流暢性を上げる

今後の課題

1. 妥当性の高いCLD児童のための日本語語彙認知診断テストの開発
2. 選定した語彙シラバスの公開・共有
3. 選定した語彙シラバスを、JSL児童生徒の来日時期・学年・発達段階、教科の分野、指導対象となる日本語の特性などを考慮したコースデザインやアセスメントに活用する方法の提案
4. 読みの流暢さ測定ツールの開発（本日の成果報告）

科研成果報告サイト 4月公開予定



日本語の自律学習・アセスメント・テスト支援サイト

Computer Assisted Autonomous Japanese
language learning, Assessment and Testing

参考文献

- 伊藤博美・佐藤洋之・倉元直樹（2003）「日本語基礎能力テストの特性（1）：国語教育から見た語彙理解力測定項目の内容評価」『教育情報学研究』1, 東北大学, pp.15-23.
- 国立国語研究所（2000）『国立国語研究所報告 116 日本語基本語彙—文献解題と研究—』明治書院.
- 齋藤ひろみ（1996）「日本語学習者と教師のビリーフス -自律的学習に関わるビリーフスの調査を通して-」『言語文化と日本語教育』12, pp.58-69.
- 酒井たか子・河野あかね・小林典子（2015）「年少者用SPOTの開発 -問題作成とインターナショナルスクールにおける試行-」『日本語教育論集』30, 筑波大学留学生センター, pp.21-33.
- 阪本一郎（1958）『教育基本語彙』牧書店.
- 佐藤洋之・伊藤博美・倉元直樹（2003）「日本語基礎能力テストの特性（2）：項目反応理論に基づく測定性能の分析」『教育情報学研究』1, 東北大学, pp.25-30.

- 田中牧郎・近藤明日子・平山允子(2011)「教科書コーパス」田中牧郎他『特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班報告書 言語政策に役立つ, コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班, pp.7-54.
- 中央教育研究所 (1976年) 『学習基本語彙の語彙調査 (研究報告第7冊)』中央教育研究所.
- 中石ゆうこ・建石始 (2016)「外国につながる子どもたちのための語彙シラバス」森篤嗣編『現場に役立つ日本語教育研究シリーズ 第2巻 ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版, 231-251
- 中島和子 (2010) 『マルチリンガル教育への招待 -言語資源としての外国人・日本人年少者-』ひつじ書房.
- 西川朋美・青木由香・細野尚子・樋口万喜子(2015)「日本生まれ・育ちのJSLの子どもの日本語力 -和語動詞の産出におけるモノリンガルとの差異-」『日本語教育』160, 日本語教育学会, pp.64-78.

- 日本語教育語彙表 (<http://jreadability.net/jev/>)
- バトラー後藤裕子(2011)『学習言語とは何か -教科学習に必要な言語能力-』三省堂.
- バトラー後藤裕子(2014)「学習言語をめぐる課 -アメリカの試みが年少者への日本語教育に示唆すること-」『第二言語としての日本語の習得研究』17, 凡人社, pp.112-126.
- 水本篤「Langtest」(<http://langtest.jp/>) .
- 茂木俊伸(2013)「小学校国語科教科書における『つまずきことば』の分析」『鳴門教育大学研究紀要』28, pp.343-355
- 森篤嗣 (2008) 「学校教育における「語彙」の教育」『日本語学』明治書院 27(10), pp.4-15.
- 森篤嗣 (2013) 『授業を変えるコトバとワザ (新時代教育のツボ選書)』くろしお出版.

- 森美子 (2003) 「日本語における語彙習得」畑佐由紀子編『第二言語習得研究への招待』47-66.
- 文部科学省「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント」 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm)
- 山内博之編 (2013) 『実践日本語教育スタンダード』ひつじ書房.
- 渡部倫子 (2016) 「教師から見た語彙シラバス」森篤嗣編『現場に役立つ日本語教育研究シリーズ 第2巻 ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版, 115-135.
- Lyster, R., & Saito, K. (2010). Oral feedback in classroom SLA: A metaanalysis. *Studies in Second Language Acquisition*, 32, 265-302.
- Sunakawa, Yuriko, Lee, Jae-ho, and Takahara, Mari (2012) The Construction of a Database to Support the Compilation of Japanese Learners Dictionaries, *Acta Linguistica Asiatica* 2(2), pp.97-115.



ご質問・ご意見をお待ちしています。

tomokow@hiroshima-u.ac.jp

本研究は、2013年度JSPS科研費25284096
基盤研究（B）『アーティキュレーションを保証する言語能力ア
セスメント実施支援システムの構築』（研究代表者：渡部倫
子）の助成を受けた。